

平成21年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ カノ 紀江
氏名 川野 紀江

研究期間 平成21年度

研究課題名 ワークショップ手法による小学校空間計画に関する研究
ー児童への地域主催環境教育ワークショップによる余裕教室利用についてー

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	川野 紀江	生活科学部	助手
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

我が国においては、児童数の減少に伴い増加している余裕教室の利活用方法を検討する必要がある。本研究では、余裕教室の利用方法のひとつとして地域住民と児童とが交流する場を想定し、教師以外の主体が実施する児童へのワークショップを試行する。

ワークショップのテーマとしては、近年地球環境問題が深刻となる中で、子どもの頃から環境教育を受けることが必要とされていることから、環境教育を取り上げる。環境教育は、教師だけでなく地域などの様々な主体が子どもの環境教育を行うことが必要とされており、余裕教室の利用目的にも適している。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

以下の研究計画・方法により研究を実施する。

- ①小学校余裕教室の発生状況と利用実態の整理(文献調査)
- ②諸外国・日本で行われている環境教育の内容・方法(実施場所含む)・実施主体の整理(文献調査)
- ③環境教育ワークショップの試行

児童を対象として、環境教育をテーマとしたワークショップを行う。地域住民に代わって、本学学生がワークショップを運営・実施する。

以上により、児童を対象とした地域ワークショップによる余裕教室利用についての考察を行う。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

①小学校余裕教室の発生状況と利用実態の整理

平成21年5月の文部科学省の発表によると、全国の余裕教室発生数は40,209室で、うち92%が学校施設として利用されている。学校施設利用の中で、地域開放が行われているのは約3%に留まり、ほとんどが児童や教師に限定した利用がされている。

②諸外国・日本でされている環境教育の内容・方法(実施場所含む)・実施主体の整理(文献調査)

調査対象10カ国中7カ国では、学校での環境教育科目が設けられ、系統だった教育が行われている。また、カリキュラムが設定されていないスウェーデン、デンマークでは、学外のネイチャー・スクールで環境について考える場が設けられており、教師以外からの主体での活動も多く行われている。日本の授業内で行われている環境教育を整理すると、主に社会科で行われており、その他の教科ではあまり行われていない。また、教科書によって記載内容に偏りがあるため、扱う教科書によって習得する知識に差が生じる可能性がある。

③環境教育ワークショップの試行

名古屋市のF学童保育所児童を対象として、環境教育をテーマとしたワークショップを行った。今回行うワークショップでは、日本の環境教育における次の課題を解決することを目的とした。

1.体験やディベートなどの学習法実践 2.建築分野をテーマとした内容 3.教師以外の主体による運営・実施 ○WS実施概要：実施日・参加児童数－H21.12.10(26名)、12.14(27名) WSテーマ－寒さ対策 ○WS評価：事後アンケート・指導員へのインタビュー結果から児童は今回のWSでは、事前のレクチャーや説明より、体験型WSから理解したと答える児童が多いことがわかった。

日本は諸外国と比べて、環境教育のカリキュラムが整っておらず、また、教師以外の主体の環境教育への関わりが少ないことが確認された。教師以外の地域住民などが運営・実施するこうしたWSを、余裕教室の利活用方法のひとつとすることは、小学校という公的施設が地域の共有施設となるだけでなく、住民と児童の交流にも繋がり、有効である。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①小学校	②余裕教室	③児童	④ワークショップ
⑤環境教育	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他○名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今後、余裕教室利活用についての研究を継続して行った後、今回の成果を含めて日本建築学会等での発表を予定している。